

# 木野

KINO PRESS.  
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

# 通信

第80号  
2023 July

特集  
京都精華大学の  
マンガ教育と研究

卒業生インタビュー  
飯村 有加さん / 平井 伸明さん



# 京都精華大学の マンガ教育と研究

京都精華大学がマンガをカリキュラムに取り入れてから半世紀が過ぎました。戦後日本で独自の発展を遂げた大衆文化にいち早く注目し、いまでは世界に知られるマンガ教育・研究の拠点となっていますが、その歩みはつねに議論と試行錯誤、そして挑戦の連続でした。マンガの何をどのように教えるか。学術研究の手法と環境をどう確立するか。マンガが社会に果たす役割とは何であり、これからどこへ向かうのか――。本学のマンガ教育・研究の50年を超える歴史を振り返り、その使命と今後を考えます。



学内の講演会では手塚治虫氏にも登壇いただいた

## マンガ学科開設が 大きな転機に

本学のマンガ教育は短大当時の1973年、美術学部デザインコースのマンガクラス開設に始まります。少年マンガ週刊誌が増え、ジャンルや表現の幅が広がり始めた時代ですが、まだ新興の若者文化であり、大学で学問として扱うことには学内でも賛否がありました。しばらくの間、絵画やイラストに近い一枚絵の風刺マンガ、いわゆるカートゥーンの技法にしほって教える時代が続きます。大学レベルの「マンガ学」確立へ大きく動いたのは2000年、芸術学部マン

ガ学科の開設がきっかけです。カートゥーンとストーリーの二分野にわたる科目編成、教員の選定などで中心的役割を担ったのが、マンガ家で本学教員だった牧野圭一氏。新聞で風刺マンガを連載しつつ、CM制作やキャラクターデザインを手掛け、自治体と連携して『まんが甲子園』を立ち上げるなどマルチに活躍したクリエイターです。

少女マンガに革命を起こしたといわれる竹宮恵子氏も、学科開設と同時に教員となりました。竹宮氏の当時の作品『エルメスの道』は、本学のマンガ教育のめざす方向性と合致していました。それは、マンガと社会をつなげ、表現・発想・思

考を社会のなかに生かすことです。吉村和真(マンガ学部教授、現専務理事)は当時の様子をこう語ります。「2001年には本学の『表現研究機構』の一部門としてマンガ文化研究所が開設されます。その頃、私は手塚治虫研究が専門の若手でしたが、日本マンガ学会の設立に奔走することになりました。マンガ研究を学問として確立するには、研究発表や相互批判の場である学会が不可欠だったからです。評論家や業界関係者からは、マンガは反権威であるべきとの反発もありましたが、マンガの影響力はもはや社会全体におよび、研究体制の構築は時代の要請でした。学会は約10

0名で設立され、本学学長だった中尾八ジメ氏が初代会長に就任。日本のマンガ研究はここから本格的に始まり、現在では会員約400名となっています。そして2006年、いよいよ独立した学部としてマンガ学部が開設されます。従来のカートゥーンとストーリーに加え、アニメーションと、原作や編集を教えるマンガプロデュースの4コースでスタート。初代学部長は牧野氏、2代目に竹宮氏、3代目が吉村と、本学のマンガ教育を一からつくってきた多数の教員たちに受け継がれていきます。同年には国際マンガ研究センターを設



写真撮影:大河原光

京都国際マンガミュージアムで開催された展覧会「縮小社会のエビデンスとメッセージ:人口・経済/医療・福祉/教育・文化/地域・国際、そしてマンガ」にて

マンガ研究の拠点となる施設「京都国際マンガミュージアム」を開館しました。約30万点の資料を収蔵・展示し、その活動と発信は現在も世界のマンガ研究をリードし続けています。

## マンガで 世界の平和に貢献する

本学のマンガ教育の使命の一つは制作者の養成であり、現に大多数の学生がプロの描き手を志して入学します。雑誌やコンテストで高い評価を受ける学生やOBは年々増え、継続的に活躍するプロ作家も数多く輩出しています。しかし、単に制作スキルを教えるだけではありません。表現の技法や作品の構造、歴史や文

化的背景を学び、マンガを社会や仕事のなかに活かす方法を探索すること。作画技術とマンガ研究をあわせ持つのが本学の教育の特徴であり、本質と言えます。マンガは異文化・言語間のコミュニケーションや情報伝達のツールにもなります。絵を描き、コマを割り、吹き出しを使えば外国人とも意思疎通が可能になる。この機能を竹宮氏は「マンガ言語」と呼びました。学長時代には、大学でマンガを学ぶ意義をこう語っています。

「2014年、木野通信61号」

「一つの作品をつくり上げる過程で、自分の内面や問題意識を探り、それを人に伝える方法を模索することで、さまざまな表現方法が身につく。それを今後の人生に活かすことができるんです」

マンガの社会的展開については、研究の分野に大きな可能性があります。マンガはいま、オンライン化の後押しもあり、国境を越えて、どんどんグローバルに広がっています。本学でもマンガ学部の約4割が留学生。国家間の政治的緊張にもかかわらず文化的交流はさかんです。現代において最も世界平和に貢献できるのがマンガではないでしょうか。

京都精華大学では表現を通じて世界と人間を考え、社会に貢献することを根本理念としています。未来をつねに見据えながらも原点を忘れず、最新の形で体現していく。次世代の表現者を育成し続け、マンガという文化の力で世界を変えていく。それこそが本学のマンガ教育・研究のめざすところです。

## マンガ教育・研究の 半世紀の歩み

- 1973年 京都精華短期大学の美術科デザインコースに「マンガクラス」開設
- 1979年 四年制移行で、美術学部デザイン学科「マンガ専門分野」に
- 2000年 芸術学部マンガ学科開設。ストーリーマンガ専門分野30人、カートゥーン専門分野20人
- 2001年 京都精華大学表現研究機構を設立。傘下組織としてマンガ文化研究所開設
- 2004年 マンガミュージアム設置構想を京都市と共同で発表。記念フォーラム開催
- 2006年 マンガ学部開設。マンガ学科がカートゥーンとストーリーマンガの2コース、マンガプロデュース学科とアニメーション学科が各1コース。国際マンガ研究センター設立、京都国際マンガミュージアム開館
- 2010年 マンガ研究科修士課程を開設
- 2012年 大学院マンガ研究科に博士後期課程を開設。マンガミュージアムに「第41回日本漫画家協会賞」特別賞
- 2013年 マンガ学部マンガ学科を再編し、ギャグマンガコース、キャラクターデザインコースを開設
- 2016年 マンガミュージアムに「手塚治虫文化賞」特別賞
- 2017年 マンガ学科に新世代マンガコースを新設
- 2022年 マンガクラス開設より50周年を迎える



## マンガ教育のこれからの可能性

● 姜 竣 / マンガ学部長



マンガ学部にはカートゥーン、ストーリーマンガ、新世代マンガ、キャラクターデザイン、アニメーションと5つのコースがありますが、近年最も志望者が多いのはキャラクターデザインですね。マンガのあり方や表現方法が時代とともに変わり、しっかりと構築されたストーリーや設定で読ませるよりも、いかに魅力的なキャラを描けるかという新しいモチベーションが生まれています。二次創作やコスプレに就いたり、フィギュアや3Dに展開できるキャラの方が人気があり、その描き手はネットで「絵師」と呼ばれる。彼らの将来の進路としてはゲーム会社やデザイン会社、挿絵を手掛けるイラストレーターなどがありますが、職業として画力を生かせる場はまだ少ないのが現状。学生の志向の変化に合わせて実際の仕事にどうつなげていくかが学部全体の課題です。

そういう意味で社会との連携は重要です。自治体や企業の依頼で実用マンガや似顔絵やキャラクターを描く、実践的な仕事の機会も数多くあります。キャラクター文化が豊かな日本では「描く仕事」へのニーズは多い。そこに応えられればビジネスになるようにも思います。何人かのチームをつくって

てスタジオを構え、仕事を受注し、マネジメントも自分たちでやる。自ら仕事をくり出していくわけです。そういうインディペンデントな制作活動は、マンガやキャラクター市場がまだ未成熟な国の方が盛んです。マンガの産業構造が固まった日本の常識を離れ、今は外国に学ぶ必要もあるのではと考えています。

最近もう一つ可能性を感じているのが「マンガ・シンキング」です。アー・ト・シンキングやデザイン・シンキングの重要性はよく言われますが、マンガには絵と文字とオノマトペのような動きのある記号を組み合わせる独自の思考や発想法がある。ネームになる以前のイメージの源泉、いわば着想の瞬間を走り書(描)きしたようなもの。この手法を発想法として体系化し、新たな表現やさまざまな仕事に生かせるのではないかと考えています。

姜 竣

大学院マンガ研究科教員、専門は民俗学・文化人類学・表象文化論。日本の紙芝居とマンガ史を調査研究しつつ、ポップカルチャーの消費、物語におけるキャラクター造形や文化の背景などを論じる。

## 世界のマンガ研究のハブになる

● 小泉真理子 / 国際マンガ研究センター長



国際マンガ研究センターが注力する活動の一つが国際連携です。例えばフランスでは、2026年頃に日本のマンガ・アニメのミュージアムが開館予定です。本学がこれまで蓄積してきた展示や研究のノウハウを提供することになりました。さらに台湾の国立歴史博物館とは学術研究交流の協定を結んでいますし、この5月末には世界中から日本のポップカルチャーの研究者延べ400人が集まる学術会議「メカデミア」が本学と京都国際マンガミュージアムで開かれ、これを取りまとめました。センターには「マンガの歴史を知りたい」「こんな資料はないか」といった問い合わせが毎日、世界中から寄せられています。このように国際的なマンガ研究のハブになることがセンターの役割であり、めざすところです。

日本のマンガ・アニメは、豊富なコンテンツとジャンルの多様さ、ターゲット層の幅広さ、キャラクターの造形や独自性、メディアミックス展開など、さまざまな角度から注目されています。私の専門のコンテンツビジネスで言えば、日本の作品が海外市場で伸びる余地はまだあります。海賊版が広がっていた国で正規化が進んでいること、

キャラクターグッズへの展開などが今後の明るい材料です。その一方で、日本ではマンガ雑誌が不振に陥り、主流がオンラインへ移ってきたことで、今は作品の幅が狭まる懸念もあります。人気作家やヒット作品と、新人やチャレンジ的な作品が一緒に収録される雑誌というパッケージが停滞しているからです。

本学のマンガ研究の特徴は、描く技術だけでなく、表現と社会との関係、作品を社会にいかに関わりつけ、ビジネスとしていかに展開するかといった理論面にも対応できることです。大学院修士過程では理論分野を専攻する学生も、実技指導を受け専門を究めます。早くからマンガ研究に取り組んできた大学だからこそ人材や資料やノウハウの蓄積があり、世界中から連携や協力の要請が来る。そんなネットワークこそが強みだと思います。

小泉 真理子

大学院マンガ研究科教員。専門は文化経済学・アートマネジメント。三菱商事でメディアのビジネス企画に従事した後、研究者となる。日本のポップカルチャーや伝統文化を世界中の人が楽しみ、発展させる仕組みを経営面から研究。

## [ 京都国際マンガミュージアム・レポート ]

マンガ文化の総合的な調査研究と資料収集、国内外への発信拠点として2006年11月にオープンした「京都国際マンガミュージアム」。研究者や熱心なファンだけでなく京都観光の新名所としても定着し、マンガと社会、さらには世界が出会う接点となっています。

所蔵資料は30万点、マンガの壁には5万冊

戦後の日本で刊行されたマンガの単行本や雑誌、研究書はもちろん、江戸時代の戯画浮世絵、明治・大正・昭和戦前期の風刺マンガ雑誌、海外の刊行物まで所蔵資料は計30万点に上る。このうち1970年以降に発行されたマンガ単行本を中心とする約5万冊が総延長200mの開架書棚に並べて配架され、「マンガの壁」と呼ばれている。約25万点の資料は保存のため開架式(書庫に収蔵し一般には非公開)になっているが、研究閲覧登録をすれば閲覧可能。所蔵資料はホームページで検索できる。マンガ史研究の貴重な資料である原画(マンガ原稿)も所蔵し、保存と公開を両立するため、原画を忠実に再現した複製「原画(デジタル)」の制作も進めている。

イベントや研究の成果が書籍に

国際マンガ研究センターと協力し、さまざまな企画展や研究会、講演やイベントを開催。過去の企画では、本学のマンガ学部長や学長を務めた竹宮恵子氏監修による「原画」の

展示シリーズ、開館10周年記念の養老孟司館長(当時)と宮崎駿氏の対談と「ふたり展」などが話題を集めた。研究プロジェクトやイベントが書籍化された例も。本学のマンガ教育の歩みと課題をまとめた『マンガで読み解くマンガ教育』(京都精華大学SEIKAマンガ教育研究プロジェクト編、阿吽社、2014年)、創作者と研究者がマンガ表現論を語り合った『マンガノミカタ』(このうの史代×竹宮恵子×吉村和真、樹村房、2021年)など。

来館者400万人突破、3割が外国人

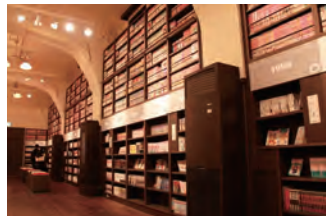
来館者数は、開館4年目の2010年8月に100万人を記録。以後、14年に200万人、17年に300万人、23年5月には400万人を達成した。東日本大震災や新型コロナウイルス禍で一時的に来館者が減ることもあったが、概ね年間30万人弱で推移している。近年のデータでは、このうち3割近くが外国人。国別ではフランス、アメリカ、オーストラリア、中国などが多い。海外における日本のマンガ・アニメ人気がここにも表れている。



京都国際マンガミュージアム (元京都市立龍池小学校北校舎)



国内外の関連資料が閲覧できる研究閲覧室



5万冊のマンガ本が並ぶ「マンガの壁」



貴重な資料を保存する地下収蔵庫



マンガの歴史などが学べるメインギャラリー



世界のマンガに触れられる「マンガ万博」



### 人生の記憶の1ページに残る デザインが目標

平井 伸明さん  
Nobuaki Hirai

CMFデザイナー  
ダイハツ工業株式会社 勤務  
大学院芸術研究科 デザイン専攻  
染織分野 修士課程  
2002年修了



### つながりと対話を生み出す アートの力を地域に

飯村 有加さん  
Yuka Imura

アートコーディネーター  
一般社団法人はなまる 代表理事  
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科  
デジタルクリエイションコース  
2011年卒業

#### セイカの思い出

4年間ろうけつ染めに没頭したこと。身につけた色の合わせ方、調色など今の仕事に必要なスキルも身につきました。



## 卒業生インタビュー

独自の道を歩む京都  
現在の活動や今後の夢、

精華大学の卒業生に、  
セイカの思い出を伺いました。

#### セイカの思い出

卒業制作は、展覧会の様子を動画共有サービスで配信。作品解説や先生との対談などの番組を必死でつくり上げました。



使い勝手や心地の良さなど、随所にこだわりが散りばめられている

自動車ボディや内装の色、素材、表面処理をデザインするのが平井さんの仕事（CMF※デザイン）。10年ほど前からチームのリーダーを担当し、それまでの車になかった柔らかな色を取り入れたリ、雑貨屋で目にした素材や色のイメージを車で表現したりと、斬新なデザインワークで車づくりに新風を吹き込んできました。「以前から、車のCMFデザインは生活と少し乖離があると感じていました。好きなファッションやインテリアを選ぶのに近い感覚を車にも持つことで、移動手段だけではなく、生活をより豊かにするパートナーに変えていきたい。」と、思っ取り組んできました。

最近、手がけた軽トラック開発では「どこでも仕事を快適に」をテーマに、デザイン性のあるボディカラー、汚れが目立ちにくく落としやすいシートファブリックなど、機能も追求。工務店を訪問し、車の使い方や要望も丹念にリサーチすることで、隠れたニーズにも応えることができたといいます。

新しい車には必ず、他にない新しい要素を加えるのが平井さんのモットーです。その原点には在学中に、自分が表現したいことを見つけ、それがどう伝わるのかをしっかりと考えるように指導された経験があるといます。「自由な選択肢があり、選択したら『思い切りやれ』とあと押ししてくれる環境でした。だからこそ、やりたいことを明確にするために、自分の個性や制作における独自性って何だろう、とつねに自問自答する取り組み姿勢が身についたのだと思います。」

目標にしているのは、「人生の記憶の1ページに残るようなデザイン」。買うときの気持ちに合っているだけでなく、何十年後にも「あの頃、あの車でこんなことをしていたよね」と思い出話に登場するような車をめざしています。「そのためには、予想を超えるうれしさや満足感を提供しないと」と意欲的な平井さん。次はどんな車が生まれるのか、今から楽しみです。

※COLOR MATERIAL FINISHES略



「はならあと」は、奈良県内の各地で開催されている

地元・奈良を主な活躍の場として、芸術で地域社会の活性化や新たなつながりの創出をめざす飯村さん。一般社団法人はなまるの代表理事として、「奈良・町家の芸術祭はならあと」や「春日山原始林アートプロジェクト」といった、現代アートを各地に展開するイベントやワークショップなどの企画・運営に携わっています。

「大学時代は、先生方の授業や雑談の中で、アートとは何か、表現とは何か、生きるとは何かについてたくさんのお話を教わりました。それが今の仕事にいろいろな形で生きていると感じています。」

コミュニケーションを先生が認めてくれたことで自信が生まれ、卒業制作では展覧会の会場からインターネットライブ中継をするという、当時としては珍しく、ユニークな取り組みに挑戦しました。それが、アートで人と人をつなげる仕事への興味につながっていったといいます。



くすみ系カラーが好評の「TAFT」のカラーシミュレーション

飯村さんにとっての仕事の魅力は、新しいアートが誕生する場に立ち会えること。「作家の思いを丁寧に聞き取り、より良い形で実現できるようにサポートしています。ときには私たちが仲立ちをして新しいコラボレーションが生まれることも。アーティストの『つくる力』を分けてもらって、一緒に制作している感覚がやりがいです。」

アーティストの視点を通じて自分も知らなかった奈良の魅力を発見できることも多いといいます。

数年前から自宅の一部を開放したコミュニティスペースで、子どもも楽しめる現代アートの展覧会やワークショップ、子ども食堂を不定期に開いています。出産・子育てを経て生まれた、子どもが気軽にアートに触れ、地域の多様な人々が交流できる場というアイデアを形にしました。「人と人をつなげ、対話を促すアートの力を感じてもらえる場になれば」と精力的に活動中。アートの可能性に挑戦する飯村さんの日々は、これからも続きます。



自宅を開放したコミュニティスペース「マルルーム」は、親子で賑わう

# 2023年度役職者・入職教職員、2022年度退職教職員一覧

2022年度をもって退職された教職員のみなさまには、これまでのご活動に深く感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。また、2023年度も多数の教職員が入職されました。新しい方々を迎え、さらなる研究・教育の発展に力を注いでまいります。

## 2023年度 役職者

- 学長**  
澤田 昌人
- 副学長**  
吉岡 恵美子  
蘆田 裕史 \*5月27日まで  
三河 かおり \*5月28日から
- 教務部長**  
斎藤 光
- 学生部長**  
三河 かおり \*5月31日まで  
田村 有香 \*6月1日から
- 入学部長**  
葉山 勉
- 国際文化学部長**  
山田 創平
- メディア表現学部長**  
吉川 昌孝
- 芸術学部長**  
北野 裕之
- デザイン学部長**  
森原 規行
- マンガ学部長**  
姜 竣
- ポピュラーカルチャー学部長**  
吉川 昌孝(兼任)
- 人文学部長**  
山田 創平(兼任)
- 芸術研究科長**  
小松 敏宏
- デザイン研究科長**  
谷本 尚子
- マンガ研究科長**  
小田 隆
- 人文学研究科長**  
高橋 伸一
- 理事長**  
石田 涼
- 専務理事**  
吉村 和真
- 常務理事**  
細谷 周平

## 2023年度 新任教職員

2023年7月1日時点

- 【教員】**
- 国際文化学部**  
グローバルスタディーズ学科  
小川 仁  
白井 裕子
- メディア表現学部**  
松村 慎※  
ucnv※  
横山 みわ  
吉川 義盛  
米山 菜津子
- 芸術学部**  
井川 彩子  
石原 葉 \*2022年10月1日から  
笹岡 由梨子  
亀田 ひなた(助手)  
松元 悠(助手)
- デザイン学部**  
●イラストコース  
あおき ひろえ  
小野 明(客員)  
筒井 大介  
谷澤 マリサ(助手)
- ビジュアルデザイン学科**  
増永 明子  
中野 咲希(助手)  
六根 由里香(助手)
- プロダクトデザイン学科**  
増田 亮太(助手)  
\*2022年9月1日から
- 建築学科**  
上野 有貴子(助手)  
宮地 果琳(助手)
- 大学院デザイン研究科**  
藤本 壮介(客員)
- マンガ学部**  
●カートゥーンコース  
相澤 亮※  
丸岡 慎一
- ストーリーマンガコース  
石井 健太  
大谷 じろう  
リアン リンシュエン(助手)
- 新世代マンガコース  
村田 知穂  
松岡 弥也(助手)
- キャラクターデザインコース  
杉浦 た美  
和田 真一  
河野 萌(助手)  
岸本 祥太(助手)
- アニメーションコース  
石井 規仁  
伊藤 豊  
神野 翼  
田村 優佳(助手)  
矢木 奈津美(助手)

- ポピュラーカルチャー学部**  
堤坂 智之(助手)
- 共通教育機構**  
上野 目 浩一  
川本 静香  
木川田 朱美  
坪田 珠里  
森 七恵

## 【職員】

- 学長室グループ**  
齋藤 雅宏
- 経営企画グループ**  
添郷 将史
- 教学グループ**  
富田 美咲
- 広報グループ**  
龔 群
- 入学グループ**  
山本 昂輝
- 学生グループ**  
阿部 杉子  
内村 駿介  
瓦井 良典  
國村 麻有  
常喜 通子  
田中 秀明  
寺尾 藍子  
秦 早希
- 総務グループ**  
恩田 妙子  
柿崎 昌太  
齋藤 希

※特任から専任

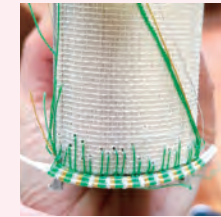
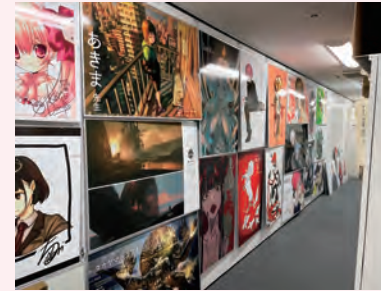
## 2022年度 退職教職員

- 【教員】**
- 国際文化学部**  
阿毛 香絵  
緒方 しらべ  
小椋 純一  
國分 圭介  
堤 邦彦  
中尾 沙季子  
羽田 正(客員)
- 芸術学部**  
伊奈 新祐  
内田 晴之  
佐藤 光儀  
渡邊 英之
- デザイン学部**  
峠田 充謙  
西村 正幸  
ベーター・ルーゲ(客員)  
井戸田 郁也(助手)  
大前 春菜(助手)  
片岡 愛貴(助手)  
藤本 麻野子(助手)
- マンガ学部**  
板橋 しゅうほう  
荻原 征弥  
榊原 太郎  
坂本 拓馬  
玉田 京子  
田村 研一  
島田 飛奈(助手)  
森田 小由実(助手)  
由里 香な子(助手)
- ポピュラーカルチャー学部**  
岸田 繁  
中伏木 寛  
高野 寛(客員)  
西谷 真理子(客員)  
岸本 正高(助手)
- 共通教育機構**  
山本 有恵
- 【職員】**
- 経営企画グループ**  
稗島 武
- 学生グループ**  
末岡 祥子  
田中 英世留  
宮島 直子  
吉澤 明日香
- 総務グループ**  
草野 仁之  
小坂 俊夫

## 【名誉教授】

- 伊奈 新祐  
小椋 純一  
佐藤 光儀  
玉田 京子  
堤 邦彦  
渡邊 英之

(五十音順)



1. 京都市美術工芸高等学校での「東洋美術史」模擬講義の様子(山名)
2. 設立10年を迎えたキャラクターデザインコースの学生作品(西野)
3. 最近の編み仕事は、左からサマーセーター、本の花ざれ、二重スカリ(淡田)

“編むこと”好きが講じて  
上映会とWSを開催。



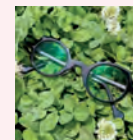
淡田 明美  
デザイン学部  
ライフクリエイションコース

早いもので、大学に来てから10年目を迎えました。大学と家のことと日々奮闘するなか、趣味の編み物がきっかけで学内の仲間と「あみあみ会」を密かに発足させ、気まぐれに活動しています。どうやら私は何かをひたすら編むことが好きなようで、編み物然り、製本では花ざれを編み、所属している研究会ではスカリ※を編み、とさまざまなものを編んでいます。この編み方を伝承したいと思い、今年4月には京都の画廊でスカリの上映会とワークショップを開催しました。

※山仕事に持参するお弁当を入れる道具のこと。滋賀県朽木村でつくられ使われていました。

### 私のお気に入り

最近手放せない私の相棒・メガネ。視力は良いのに老眼が急にきました。娘にはのびたみたいと言われます



コース設立10年!  
変わるもの、変わらないもの。



西野 公平  
マンガ学部  
キャラクターデザインコース

キャラクターデザインコースも設立10年目を迎え、1学年100人、4学年で350人(4年生だけはまだ50人)近くに、本館の5階、3階、2階に実習室が広がっています。今年度は二人に一人が留学生になったりして、きっと卒業生が知っているキャラクターデザインコースとはだいぶ様子が変わっていると思います。それでも西野研究室にはデジ絵描きをめざす学生たちが集まっています。左先生や吉田誠治先生にイラストを見ていただいたり、新入生が入ってくるたびに上級生が「今年の1年やべえ、今のうちに若い芽摘んでおかないと!」と言っているところも同じです(笑)

### 私のお気に入り

スペインでも日本でも、かわいいものはかわいい!



活気が戻る一方で、  
寂しい気分に。次は自分の番!



山名 伸生  
国際文化学部  
人文学科

新年度が始まり、コロナ以前の体制に戻りました。マスクをとるとセイカの森の木々の香りが心地良いです。久しぶりに約200名がぎゅぎゅり入った大教室で講義が再開しました。心なしか学生たちの表情も明るくなってきたように感じます。(最近、天ヶ池に飛び込んだ学生も現れたとか)。一方、3月末には長年、人文学科を支えてくださっていた、堤先生と小椋先生が定年を迎えられ寂しい気分です。次は、自分の番ですが、研究室に溜まりに溜まった本やら荷物をどう片付けられるのか、今から途方に暮れています。

### 私のお気に入り

幕末から明治初期の瀬戸の石皿。丈夫で触り心地が良くのびのびとして屈託のない絵付けの妙



木野からヤツホー



あの先生元気かな...?  
そう思っている卒業生のみなさんへ、  
セイカの教員からのメッセージです。

## 高校生の創作活動を応援する「SEIKA AWARD 2023」を開催



高校生の自由な創作活動の応援と新しい才能の発見を目的とした創作作品コンベンション「SEIKA AWARD 2023」を22年度も開催しました。4年目となる今回は、960点の応募があり、高校生の「世界」をさまざまな表現方法で創作した、新鮮で熱量のある作品から入選作品150点を選出。3月13日には、入選作品からグランプリや学長賞などの入賞作品43点を発表しました。

3月19日の授賞式には、受賞者の15名が来学、12名がオンラインにて出席。受賞者は受賞の喜びをコメントし、学長が祝辞を述べました。授賞式の様子はYouTubeでライブ配信を行いました。



「SEIKA AWARD 2023 入選作品展」  
2023年3月16日(木)～3月22日(水)  
京都精華大学ギャラリーTerra-S

また、本学ギャラリー「Terras」では、3月16日～22日の期間に「SEIKA AWARD 2023 入選作品展」を開催しました。美術に限定することなく開かれた表現の発表機会として、美術・工芸、デザイン、マンガ、メディア、文章などの多様な表現部門から集結した入選作品を一同に展示。全国各地から出展された高校生の力作をひと目見ようと、多数の来場者が訪れ、盛況のうちに終了しました。

同コンベンションはさらなる発展をめざし、第5回目も始動。今年も昨年同様「世界」をテーマに、オリジナル作品を2023年12月より公募予定です。高校生からの応募をお待ちしています。

## アセンブリーアワー講演会にはアーティストや動物行動学者が登壇



公開トークイベント「アセンブリーアワー講演会」には今期もさまざまな講師をお招きしました。独立研究者の森田真生氏は、「遊びながら考える」をテーマに、既存の制度や地球環境が激しく変化していく現代において、プレイフルな姿勢に切り替えて生きるこの可能性を示しました。

アーティストの鴻池朋子氏は、「みる誕生」をテーマに講演。鴻池氏の発案により講師を囲む形で観客席を並べ、参加者にも対話を求めました。また氏は、自分の作品がエネルギーを発揮したと感じるのは、そこに介在する人との関係性によって、作品が機能し始めるような時だと語りました。

- アセンブリーアワー講演会**
- 「遊びながら考える」 森田真生(独立研究者)  
2022年11月24日(木)
  - 「みる誕生」 鴻池朋子(アーティスト)  
2022年12月1日(木)
  - 「私と小説の世界」 村田沙耶香(作家)  
2022年12月15日(木)
  - 「鳥語革命 THE BIRD LANGUAGE REVOLUTION」  
鈴木俊貴(動物行動学者/京都大学白眉センター 特定助教)  
2022年12月22日(木)

作家の村田沙耶香氏は、聞き手を本学マンガ学部教員の三河かおりが務め、「私と小説の世界」とのテーマで講演しました。自身が小説を書き始めた小学生時代の経験や発想の手がかり、「死」に対する感覚などを真摯に語りました。動物行動学者の鈴木俊貴氏は「鳥語革命」をテーマに、「言語をもつのは人間だけだ」という常識を疑い、シジュウカラやその仲間の小鳥たちが、実はさまざまな鳴き声を使い分け会話していることを発見してこられた経緯を語った後、森原デザイン学部長との対談では「科学と芸術の共通項は着眼点(ものごとの見方)である」と結びました。

## 来場者400万人に到達した京都国際マンガミュージアムでのWS企画

2006年の開館以来、読むだけではないマンガの楽しみ方をさまざまな形で来館者に伝えてきた京都国際マンガミュージアム。その試みの一つにワークショップがあります。

3月18日から開催された「あつまれ! マンガワークショップ博」では、絵本クリエイター・twotwotwo(にに)の考えた物語の世界観のもと、ミニ絵本づくりや収蔵庫探検ツアーなど、多彩なプログラムが実施されました。ワークショップには、国際マンガ研究センターのイトウユウをはじめ、本学マンガ学部教員吉村和真、小川剛、ユースギオンや、マンガ学部の学生など多数が講師と



©twotwotwo



「あつまれ! マンガワークショップ博」  
2023年3月18日(土)～5月28日(日)

して参加。子どもたちにマンガや京都国際マンガミュージアムの魅力を伝えることができました。

また1月5日より、授乳やおむつ替え、離乳食などのベビーカーに対応した完全個室のmamaro(ママロ)を館内3階に設置しています。お子さま連れの方はどなたでも利用が可能で、より多くの方に気兼ねなくマンガを楽しんでもらえるようになりました。

5月12日には来場者が400万人に到達。記念式典では、京都市長の門川大作や本学理事長の石田涼から、400万人目となった来場者に荒俣宏館長直筆の色紙やマスコットキャラクター「マミュー」のグッズが贈られました。

## 霊長類学者をゲストに迎え、人間の真価を問う

本学では1年生の必修科目「自由論」にて、人間環境デザインプログラムの教員・全学研究機構長のウスビ・サコが「自由とは何か」をテーマに講義を実施しています。学生一人ひとりが自分の生き方について考えることを目的として、多様なゲストを招き、自由について深く考察できる時間となっています。霊長類学者の山極壽一氏をゲストに迎えた回では、「コミュニケーションの進化」をテーマに講演いただきました。言語を持たないサルやゴリラを研究することによって、言葉を持つことで人間がどう発展してきたかを探ってきた山極氏。「本来人間は、一人でもできる狩猟採集型の生物で



「コミュニケーションの進化  
—自由・差別・人権—  
2022年12月16日(金)  
山極壽一×ウスビ・サコ



す。しかし都会というシステムは、一人では何もできない人間をたくさんつくってききました。システムから外れる怖さが差別につながっている。そのことをもう一度考え直さないといけない。資本主義は農耕牧畜以降にできたシステムで、21世紀はパンデミックが起きるなど、限界値を超えているのだと思うんです。今、資本主義に代わる転換期にきていると思います」と語られました。

サコは「これからの世界が変わっていくときに、自分たちを否定して新しいものをつくるのか、自分たちを否定しないまま正しいのか、どちらの方向でいくのか注目しています」と応答しました。



京都精華大学ギャラリーTerra-S ※入場無料

- 「合同陶芸展」  
2023年8月25日(金)～9月2日(土)
- 「You Are Invited」  
2023年9月7日(木)～9月15日(金)
- プロジェクトSaShiMi「海闊天空」  
2023年9月23日(土)～9月29日(金)
- ハリヤ個展「Engiin neg odor」  
2023年9月23日(土)～9月29日(金)
- 京都精華大学55周年記念展  
「FATHOM-塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン」  
2023年11月17日(金)～12月28日(木)

【休場】日曜日・祝日(展示よって異なる)  
【時間】11:00～18:00

【問い合わせ先】  
京都精華大学ギャラリーTerra-S(明窓館3F)  
☎075-702-5263



京都国際マンガミュージアム

- 村上もとか展  
「JIN-仁-」、「龍-RON-」、僕は時代と人を描いてきた。  
2023年6月17日(土)～10月3日(火)
- 村上もとか講演会とサイン会  
「フィクションの中の現実性」  
2023年9月16日(土) 13:00～14:30

【休館】Webサイトをご確認ください。  
【時間】10:30～17:30(最終入館/17:00)

【問い合わせ先】  
京都国際マンガミュージアム  
☎075-254-7414



その他公開講座

- アセンブリーアワー講演会
- 公開講座ガーデン  
など



サテライトスペースkara-S

- ショップ
  - ギャラリー
- 在学生、卒業生の作品が並びます。



活躍する在学生、卒業生の  
情報を募集しています。

情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学 ウェブサイト  
<https://www.kyoto-seika.ac.jp>
- 広報グループ  
kouhou@kyoto-seika.ac.jp



Student  
05



海外長期フィールドワークで  
国際文化学部生ら40名が無事渡航

グローバルスタディーズ学科から32名、人文学科から1名、人間環境デザインプログラムから7名が海外長期フィールドワークに出発しました。渡航先はアメリカ、カナダ、韓国、スペイン、セネガル、タイ、台湾、トルコ、ニュージーランド、フィリピン、フランスとさまざま。期間は地域により異なり、1月から6月にかけて出国、5月から9月にかけて順次、帰国しています。

人文学部の設立当初から行われてきた海外長期フィールドワーク。名称や形態など異なる部分もありますが、学生たちが価値観を変える得難い経験をし、新たな自分を発見して戻ってくるというプログラムの根幹は変わりません。今年も多くの学生たちが、大きな変化を見せてくれるでしょう。

Student  
06



キャラクターデザインコースの学生が  
国際学生オンラインゲームでグランプリを受賞

2022年12月2日～4日に開催された「Belgium×Japan ゲームジャム2022」にて、参加したマンガ学部の学生らがグランプリをはじめ、多数の賞を受賞しました。ゲームジャムとは、経歴もスキルも多様な参加者が一堂に会し、短期間でテーマに即したビデオゲームを開発し公開するイベントです。ハイブリッド形式で開催された今回は、ベルギーと日本の両国あわせて約200名の学生が参加し、合同チームを結成。「バランス」をテーマに、アイデアを出し合ってゲームを制作しました。グランプリを受賞した、キャラクターデザインコースのリュウ・ゾンハオさんと杉本紗弥さんは、後日ベルギーに招待され、現地の学生との交流などが行われました。

News  
03



ダイバーシティ推進センターが  
マサイ長老を講師に迎え講演会を開催

2022年12月2日に、マサイ長老としてケニアに暮らすエマニエル・マンクラ氏をゲスト講師に迎えた講演会「マサイ長老と『リーダーシップ』について考える」を開催しました。講演はオンラインで行われ、マサイが大事にしている価値観や伝統、持続可能な地域づくりに必要なリーダーシップについてご紹介いただきました。マンクラ氏はケニアの南部にあるカジアト県エセノルア村生まれ。14歳で戦士となり、現在は長老として若者の育成や課題を抱える女性の支援を推進しているほか、世界各地からさまざまなリーダーを村に招待し、マサイについての発信も行っています。講演は一般の方にも公開され、遠く離れたマサイの暮らしや文化に直接触れられる貴重な機会となりました。

News  
04



「サイコウ!」をテーマに  
「木野祭2022」がハイブリッド形式で開催

2月10日、11日に創立以来初となる、対面とオンラインを併用した学園祭を開催しました。作品やライブ会場の様子をオンラインでも配信し、遠方にお住まいの方でも楽しんでいただくことができました。また、広いキャンパスのいたるところで鑑賞できる展覧会や物販、劇場ステージやキャラクターコンテストなど、さまざまなプログラムで学園祭を盛り上げました。ギャラリーTerra-Sでは「作品展示会」を開催。テーマとなる「サイコウ!」に沿って、さまざまな価値観から表現された映像、立体、絵画、マンガなどの多彩なジャンルの作品が会場のギャラリーおよび、オンラインにて展示されました。2023年度は11月にキャンパスにて開催予定です。

News  
01



京都精華大学学長表彰  
2022年度の受賞者が決定

京都精華大学の名誉を高め、本学の活性化につながる功績を修めた本学の関係者を毎年表彰しています。厳正な選考の結果、2022年度は以下2名と1組に賞が贈られ、3月に受賞式も開催されました。みなさんの今後ますますのご活躍を心より応援しています。

【学長賞】  
生駒泰充(芸術学部洋画専攻 教員)

【学長特別賞】  
カートゥーン似顔絵チーム(教員・学生によるグループ)

【卒業生功労賞】  
澤田 華(芸術研究科博士前期課程 修了)

News  
02



総勢800点を超える学生作品を展示  
「京都精華大学展2023—卒業・修了発表展—」

今年も2月15日～19日に、京都精華大学のキャンパスを会場として卒業・修了発表展が無事開催できました。本展では、800名以上の学生たちの卒業作品や研究論文を、約20万㎡の広いキャンパス全体を使って展示。学内ギャラリーだけでなく、学生たちが4年間使用してきた教室や屋外広場、体育館、校舎の外壁など、スペースの特性を生かして幅広いジャンルの作品が展開されました。なかには、10メートルを超える大型作品や空間を埋めつくすような作品など、自由な発想の数々が来場者を驚かせていました。本学の多様な分野で培った専門技術や知識、表現力の集大成を多くの方にご覧いただくことができました。



## ～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学で学ぶ多くの学生の生活支援、本学のさらなる教育・研究活動の充実のため、温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

### ●寄付募集Webサイト

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/donate/>

クレジットカード決済、コンビニ決済、インターネットバンキング決済など、ご希望の方法でご寄付いただけます。2022年4月から、自動で継続的なご寄付ができる「継続寄付」の仕組みも新たに導入しています。



### ●京都市ふるさと納税寄付金

<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000186773.html>

本学は、地域と連携した社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。ふるさと納税の使い道で、「『大学のまち京都・学生のまち京都』の推進～市内大学と協働！学生さんの挑戦を応援！～」をお選びいただき、「京都精華大学と協働！」を指定いただきますと、ふるさと納税の寄付金の一部が本学の社会貢献活動の費用に充てられます。新しい寄付の形として、ぜひご利用ください。

### ●リサイクル募金(旧称:古本募金)Webサイト

<https://lp.kishapon.com/seika/>

読み終わられた本やDVDに加え、貴金属、ブランド品、切手、年賀状、商品券などをご提供ください。その査定換金額を京都精華大学に寄付いただく取り組みとなります。

2022年度は、法人・個人あわせて34,426,168円のご寄付をいただきました。また、リサイクル募金は、115,054円分のご寄付となりました。ありがとうございました。2023年度も、本学のめざす「表現で世界を変える」教育・研究活動のために、ぜひみなさまにお力添えいただければ幸いです。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### お問い合わせ

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail: [donation@kyoto-seika.ac.jp](mailto:donation@kyoto-seika.ac.jp)

TEL 075-702-5201 FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先ご住所等の変更を希望される方は、木野会ホームページまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

学校法人京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局

<https://seikajin.com>

FAX 075-702-5391

## 京都精華大学

### 国際文化学部

人文学科

グローバルスタディーズ学科

### メディア表現学部

メディア表現学科

### 芸術学部

造形学科

### デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

### マンガ学部

マンガ学科

アニメーション学科

### 人間環境デザインプログラム

### 人文学部

総合人文学科

### ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科

### 大学院

芸術研究科

デザイン研究科

マンガ研究科

人文学研究科

### 表紙の作品

『the circle of\_』2022年度 卒業制作  
的野 哲子さん 芸術学部 テキスタイル専攻

素材：帆布、アクリル絵の具、顔料、  
シルクスクリーンメディウム

サイズ：H2,700mm×W5,300mm



目を閉じるとあらゆるイロとカタチが踊り出す—描きたいという衝動に掻き立てられて、複雑だが純粋で美しいと思える世界が生まれてきます。私はそれを“うちゅう”と呼んでいて、それには生命や感情や物質などこの世を創り出すものすべての作用が含まれます。

## 木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第80号

2023年7月28日 発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5197 <https://www.kyoto-seika.ac.jp>